

神戸市 ウェアラブルデバイス推進会議（第 5 回） 議事要旨

出席委員＝塚本、稲見、上善、杉本、寺田、富田、西田、福田、村岡

欠席委員＝中内

オブザーバー＝坂本 賢志（株式会社アシックス 経営企画室）

事務局（神戸市）＝松崎、長井、磯部

0. 議事次第について

【塚本委員】今年度この神戸市ウェアラブルデバイス推進会議が立ち上がったおかげで、神戸市を中心にウェアラブルデバイスが推進されている。今後も重要な課題・テーマに取り組んでいきたい。

1. 介護分野での実証事業

【長井】2月18日より須磨在宅福祉センターで、若年性認知症の方を対象として、活動量計を用いた実証事業を開始する。数値結果だけをフィードバックした場合、悪影響を与える可能性も考えられるため、工夫が必要だと考えている。

【寺田委員】先日ご家族からニーズを聞く機会があり、本人の歩くモチベーションを上げてほしいという声があった。歩数をフィードバックする際にどのようにして本人に見せるべきかを考えている。例えば、チーム対抗で歩数を軽い競争というような形で進めたい。

現在どのようなデバイスが最も適切かを選定しているところ。また、場合によってはご家族の方にも一緒に着けてもらうことも考えている。期間としてはまず1週間分のデータを見てから考えてみたい。対象者は10名程度。

【長井】来年度以降は今回の結果も踏まえ、例えば排泄で悩みを抱えておられる方もいらっしゃるということなので、そういったニーズにつなげることができればと考えている。

【寺田委員】自分で排泄のタイミングがわかるデバイスへの要求が非常に高かった。

【塚本委員】今回は可能な範囲内のことをまず試してみるということで進めていただきたい。3月のイベントで結果報告をしていただきたい。

2. その他の分野での実証事業

【長井】神戸マラソンでの実証事業で得た走行ログをオープンデータ化する方向でアシックスの坂本氏と調整を進めている。

【塚本委員】画期的な取組みである。

【村岡委員】どういうフォーマットでオープンデータ化するのかは気になる。

【坂本氏】40Kmまでのデータとし、ゴールタイムから個人が特定されないよう配慮する。ゼッケン番号、年齢、性別、あるいは心拍などの生体データは公開しない。ペースや1分当たりの歩数などを公開したいと考えている。

【上善委員】西田委員と一緒にやっている取組みを紹介させていただく。全国的にバス運転手の人材確保が困難な状況にあり、先日もバス事故の報道があった。

そういった課題に対して、みなと観光バスのバス運転手に生体センサーを付けて情報を集めることで、危険な状況に陥る前の予測などに活用できないかと考えている。

【西田委員】ラオスやみなと観光バス、たこバスでバスロケを実施している。今回はみなと観光バス

でバスロケに加え、先ほど紹介のあった取組みを進めている。

【松崎】今月から市バスでバスロケを実証する。災害時に Wi-Fi 中継機能としての機能も併せ持っている。

【坂本氏】位置情報に準天頂衛星みちびきを使えば、走行レーンの違いまで分かる。それによって、居眠りやブレーキング分析も可能かもしれない。

【上善委員】運転手にたくさんのセンサーを付けて走ってもらっている。

【西田委員】全国的にバスの事故が多く発生しているので、バスの安全運行に役立つ。精神的な問題による事故も起こっているのではないかと想定される。

【上善委員】精神状態も声で分析している。

【寺田委員】自分が特別な実験をされているということでとれる数値に影響はないのか。

【西田委員】最初はバイアスが入るが、ずっと着けていることで影響は少なくなっている。

【塚本委員】バスの安全運行に関してはトレンドとしても非常に重要な課題であり、神戸市ウェアラブルデバイス推進会議としても取り組めることがないか検討してみてもどうか。

【松崎】市ではオープンデータを進めているが、データ公表についてのガイドラインを検討するための有識者会議を3月に開催する。

【杉本委員】携帯電話が流行った時の電車内ルールと同じく、何かしらのガイドラインは必要。ガイドラインができることで安心につながる。そしてそのガイドラインに沿って、ビジネスにつながる可能性も生まれてくる。

【稲見委員】パーソナルデータの取扱いについては情報銀行の取組みも参考にしてみようか。

【杉本委員】ファッションで何かできないか。例えばモデルの方が体幹トレーニングをしている中で、ウォーキングの様子をトラッキングして可視化することで、若い女性の方に対してウェアラブルの使い方として訴えられるかもしれない。神戸市発のウェアラブルファッションショーをしてみてもどうか。

【塚本委員】3月のイベントでファッションショーをしてみてもどうか。

【村岡委員】神戸市をウェアラブルの街とするためには、新たな製品を作るよりも既製品をどのように活用するのかを示すべきである。

【杉本委員】逆に新たな製品を作りたいと思っている人が、神戸に行けば何とかなるというようなまちを目指すという考え方もある。

【坂本氏】コンパクトな形でウェアラブルを用いた未来のスタイル・活用法を提言してもいいのでは。

【稲見委員】超人スポーツ協会では、今年の夏、日本デザイナー学院と一緒に未来のスポーツイラストコンクールなどを開催した。

先ほどの杉本委員の意見が非常に示唆的で、ウェアラブルを着けたファッションというよりも、ファッションモデルのような人になるためにウェアラブルを着けるという観点の方がビジネスとしてもマッチする。ウェアラブルでキレイになれるという提案の仕方をする方が普段ウェアラブルに興味がない人に訴えかけられる。

【杉本委員】工房とブティックがセットになっているような小さなファッション企業と一緒にやるべき。ここに行かないとできないというものにすべきである。

【村岡委員】一般の人はウェアラブルデバイスについて全く知識がない。普及啓発のため、デバイスに触れる体験ができる場所を神戸に設けるべき。

【塚本委員】たとえばスタートアップ関連施設の一面にそのようなスペースを設けてはどうか。

3. 「ウェアラブルデバイスって何だ？フェスティバル」の開催

【長井】先ほど村岡委員がおっしゃられたとおり、市民のウェアラブルに対する認知度向上がこのイベントの目的である。トークセッションコーナーとデモンストレーション・体験コーナーを設置する。本日はこのイベントの趣旨を踏まえ、トークセッションの内容を決めていきたい。

【塚本委員】各委員でそれぞれ得意な分野でセッションを担当していただいてはどうか。

● 討議により決定したトークセッションテーマ

「ウェアラブル×○○」

スポーツ、医療、ヘルスケア、ゲーム、デザイン、ウェブ技術、交通、ファッションショー

4. 来年度について

【長井】来年度も引き続きこのメンバーでの開催を考えているが、もし新たな委員のご提案などあれば今日でなくても良いのでお願いしたい。進め方も今年度と同様で考えている。

【杉本委員】ファッション分野でウェアラブルに興味があるかもしれない人を知っているので、一度当たってみたい。

【塚本委員】今年度はまずできることからということで進めてきたが、来年度は新たなテーマにも取り組んでいくべきである。今後のテーマとして観光はどうか。マラソンなどのスポーツや介護にも引き続き取り組んでいきたい。